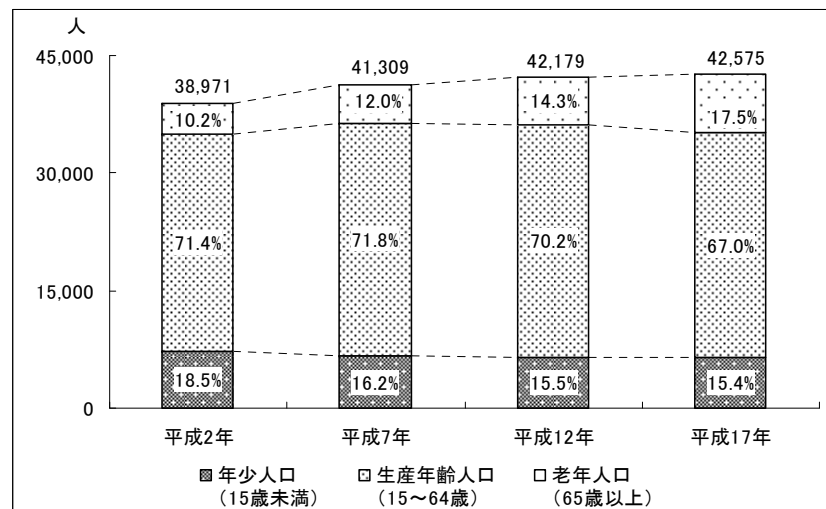


巡回福祉バスの現状について

1. 弥富市の地域特性

①人口構成

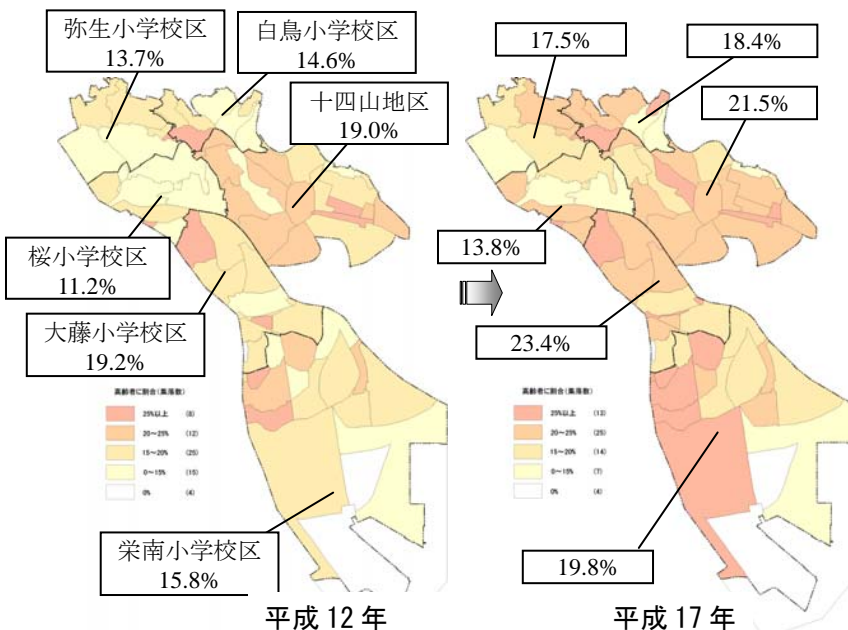


本市の人口は、平成17年現在42,575人である。平成2年から平成17年まで9.0% (3,604人) 増え、経年とともにやや増加している傾向である。

年齢階層別では、年少人口が15.4%、生産年齢人口が67.0%、老年人口が17.5%となっており、平成2年から年少人口の減少と老年人口の増加が継続し、平成17年には老年人口割合が年少人口割合を上回っている。

⇒進行している高齢化に向けた地域住民のアクセシビリティの確保が重要となる。

②地区別高齢者率

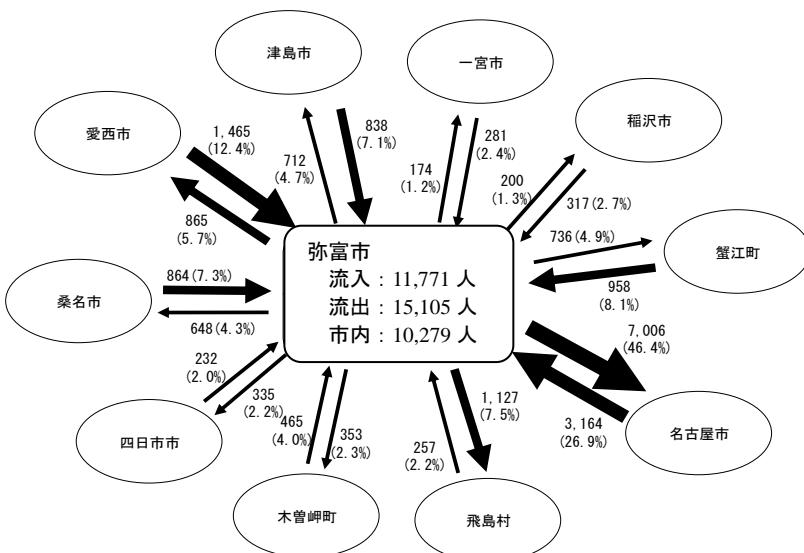


本市の地区別の高齢者率は、平成17年現在、大藤小学校区が23.4%と最も高く、次いで十四山地区が21.5%、栄南小学校区が19.8%となっており、他の地区に比べてやや高い高齢者率を示している。

また、地区別の変化(H12年~H17年)は、大藤小学校区、栄南小学校区がそれぞれ4.2%、4.0%と最も増加している。

⇒地区別の高齢者率の変化を考慮し、高齢者の移動実態を把握したうえで運行体系の検討が必要である。

③通勤・通学流動人口状況



本市の通勤・通学人口は、平成17年現在の総人口42,575人のうち37,155人となっている。そのうち、流入人口11,771人(31.7%)、流出人口15,105人(40.6%)、市内移動人口10,279人(32.5%)と流出超過となっている。

人口流出先別に見ると、15,105人のうち名古屋市が46.4%と最も多く、次いで、愛西市へ12.4%、飛島村へ7.5%となっている。

⇒通勤・通学流動人口の状況を考慮し、市内の移動支援に加え、特に市外を結ぶ交通結節点へのアクセス向上を図る必要がある。

2. 巡回福祉バスの現状

①巡回福祉バスの運行ルート (※ルート図は資料6参照)

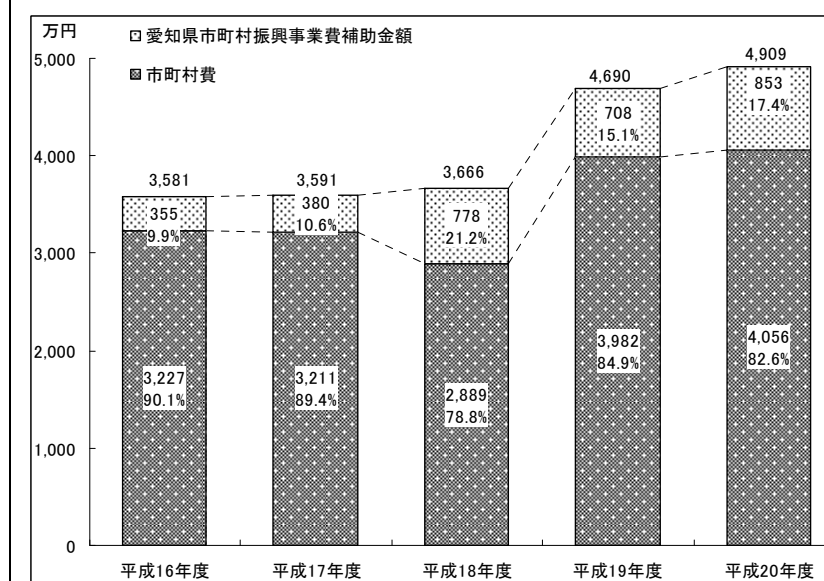
コース	ルート区間 (停留場、地区名等)		ルート延長 (Km)	運行本数	年間利用者 (人/H20年)	1便当たりの平均乗車人数 (人/便)	運行時間帯	
	出発地	到着地					始発発時刻	最終便着時刻
A	北系統	総合福祉センター → 十四山総合福祉センター	23.1	8	10,646	5.5	8:20	17:36
	南系統	総合福祉センター → 十四山総合福祉センター	16.8	8	9,432	4.9	8:25	17:26
B	弥富いこいの里	総合福祉センター	20.5	8	18,365	9.5	8:40	17:31
C	弥富いこいの里	総合福祉センター	22.1	8	18,896	9.8	8:42	17:44
D	狐地公民館	近鉄弥富駅南口	22.3	2	3,289	6.8	7:30	18:31
E	トレーニングセンター	近鉄弥富駅南口	10.6	1	2,063	8.6	7:01	7:27
合計					62,691			

※現在の巡回福祉バス：25人乗り、4車両運行

巡回福祉バスは、平成21年現在6コースが運行されている。A、B、Cコースは各8便/日が運行されているが、D、Eコースは各1~2便/日と少ない状況である。なお、1便当たりの平均乗車人数ではAコースが少なくなっている。

⇒移動実態の把握による通勤・通学時間帯に合わせた増便やD、Eコースの便数の見直しが必要と考えられる。

②巡回福祉バスの運行経費

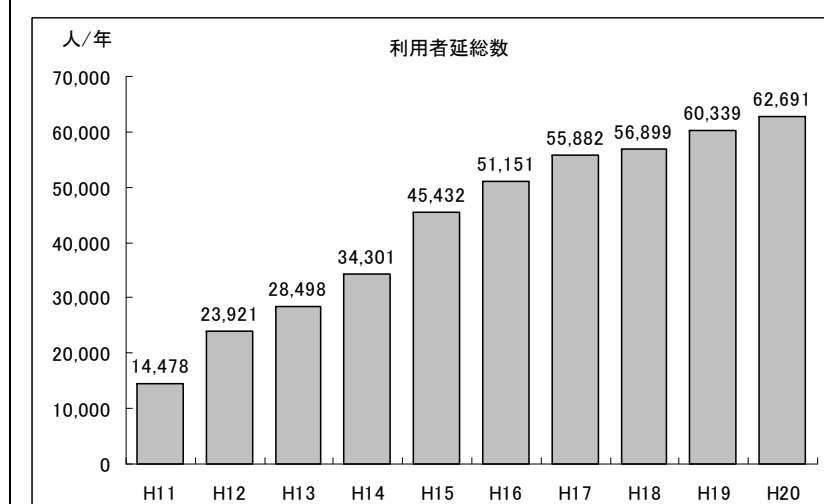


巡回福祉バスの運行経費は、平成16年の約3,600万円から平成20年現在の約4,900万円まで年々増加している。

総運行経費のうち、毎年約10%~20%が愛知県市町村振興事業費から補助されている状況である。

⇒無料福祉バスということで、増便、ルート延長と共に、運行経費が増加することから、効率的かつ適正な運行体制の検討が必要である。

③巡回福祉バスの利用状況



※H14、3系統で運行 (2車両)、H15、4系統で運行 (3車両)
H16~、5系統で運行 (4車両H19)

巡回福祉バスの利用状況は、平成11年の14,478人から平成20年現在62,691人まで、年々利用者数の増加が見られる。

増加傾向は平成11年から平成17年までは大幅増加しているが、平成17年から現在までは、やや増加している状況である。

⇒利用状況の伸びが小さくなってきていることから、利便性向上を考えたサービスの検討が必要である。